

第 2 章

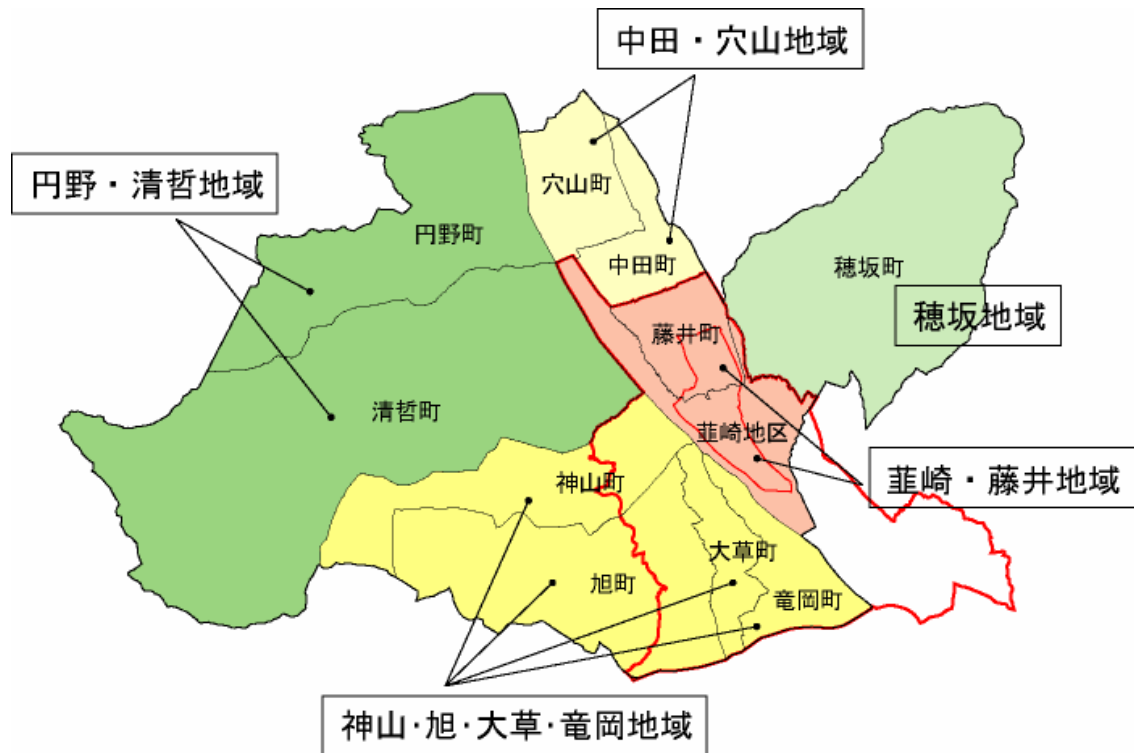
地域別構想

(身近な地域を対象にしたまちづくり)

地域区分

地域別構想は、より身近な地域を対象にしたまちづくりの構想です。

市内 11 地区を、下図のとおり地形や交通条件等から 5 つの地域に区分して、まちづくりの方向性を示します。



1 . 韮崎・藤井地域のまちづくり

1) 地域の位置

本地域は、ほとんどが釜無川、塩川に挟まれた市の中心部に位置し、JR 中央線の特急停車駅である韮崎駅周辺の中心市街地を含む地域です。

韮崎地区の全域と藤井町の全域を含む地域となります。



2) 地域の基礎データ

面積は市域の約 8% ですが、市人口の約 38% に相当する約 1 万 3 千人が居住し、人口密度は 11.0 人/ha となっています。

人口は、藤井町では増加していますが、韮崎地区では減少しています。人口増減率は、藤井町が竜岡町に次いで 11 地区中 2 番目に増加率が高い一方、韮崎地区では、円野町に次いで 11 地区中 2 番目に減少率が高くなっています。

高齢者比率は 19.9% で、市平均の 20.0% とほぼ同じ状況ですが、地区別では韮崎地区が約 21.6% と高い一方、人口が増加している藤井町では約 16.9% と竜岡町、大草町に次いで 11 地区中 3 番目に低い状況です。

表 地域の基礎データ (H17)

地域面積	1,170ha(8%)
人口	12,898 人(38%)
人口密度	11.0 人/ha
世帯数	4,715 世帯(41%)
世帯当り人員	2.7 人/世帯

() 内は、全市に対する割合(%) 資料：国勢調査

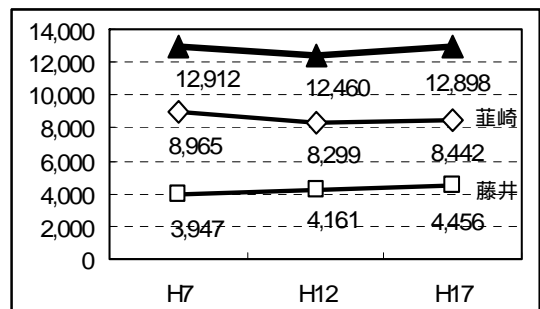


図 人口推移

表 各地区の人口・世帯数の推移

単位：人/世帯/%

	平成 7 年		平成 12 年		平成 17 年		増加率(平成 7~17 年)	
	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口(%)	世帯(数)
韮崎	8,965	3,061	8,299	3,113	8,442	3,225	5.8	164
藤井	3,947	1,204	4,161	1,322	4,456	1,490	12.9	286
合計	12,912	4,265	12,460	4,435	12,898	4,715	0.1	450

資料：国勢調査

3) 地域別まちづくりへの住民意向

(市民まちづくりアンケートを通じての地域住民の意向)

住みやすさについて

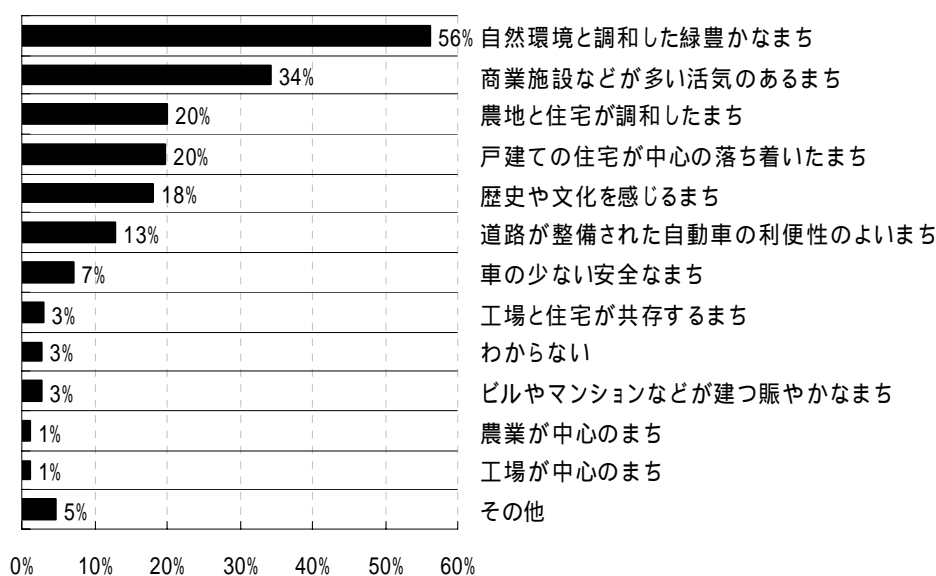
約4割の人が「ぜひ住みたい」と考えており、「できれば住みたい」と考えている人を合すると約8割の人が住みたいと考えています。

住みたい理由の第1位は、「山や川や緑などの自然が多いから」(約3割の人が選択)で、第2位は、「学校や病院など生活に必要なものが揃っているから」(約2割の人が選択)となっており、他地域と比べ、生活利便性に関する事項が上位となっている一方、「家の回りのゆとり」や「静かな環境」に関する事項は下位となっています。

転居を考えている理由は、「まちに魅力がないから」(約半数の人が選択)が圧倒的に多くなっています。

地域の将来像について

「自然環境と調和した緑豊かなまち」(約6割の人が選択)に次いで、「商業施設などが多い活気のあるまち」(約3割の人が選択)への意向が強く、特に葦崎地区では、「商業施設などが多い活気のあるまち」(約4割の人が選択)への意向がより強くなっています。



4) 地域の特性と主要課題

本地域は、ほとんどが釜無川、塩川に挟まれた市の中心部に位置し、JR 中央線の特急停車駅である葦崎駅周辺の中心市街地を含む地域です。

葦崎都市計画区域内に位置し、用途地域を含む地域です。

葦崎駅周辺には、商店街が形成

されていますが、葦崎東中学校付近の車利用者を対象とした商業施設が賑わいを見せる一方、葦崎駅周辺の商店街の機能が低下するなど、中心市街地に変化が見られる地域です。

交通の要所として多くの車が流入するとともに、集客施設や大規模企業などから発生する交通もあり、集客施設周辺の混雑、通勤時間帯の集中による渋滞、住宅地内への通過交通の流入など、様々な問題が生じています。

既存住宅地の周縁部の農地では、無秩序な宅地化の進行が懸念されています。

本地域の中央に市役所、南部に病院等、北部には文化ホールと、主要な公共公益施設が集積する一方、利便性の向上が求められています。

市街地の貴重な後背緑地である七里岩がありますが、低地部と台地上のネットワークは弱くなっています。

釜無川、塩川といった貴重な河川環境は、有効活用をはじめ、河川沿いの防災対策が求められています。



市内、及び近隣市の交流拠点地域として、市街地の都市的な機能の充実を図り、葦崎駅を中心とした賑わいを再生すること

既存住宅地の居住環境の向上を図るとともに、新たな宅地化の流れを適正に誘導し、質の高い安全・快適な暮らしの環境を形成すること

市街地の貴重な後背緑地である七里岩、釜無川、塩川を守るとともに有効に活かし、自然的環境と調和した安全な地域を形成すること

これらが、地域のまちづくりの主要課題となっています。

5) 地域の将来像

既存の資源を有効に活用し、

**都市的な機能と質の高い快適な環境を備えた、
多様なネットワークの中心となる、活気のある中心地**

の形成を目指します

6) 地域のまちづくり方針

(1) 多くの人が集まり賑わう“場”の形成

蕪崎駅周辺の人が集まる“まちの顔”づくり

“まちの顔”としての機能の充実

- ・ 中心商業・公共公益サービス、歴史・文化、商用・観光等の滞在、都市型居住など、多様な都市的機能の集積地の形成（既存商店街の再生、既存施設の有効利用、新たな商業集積地の機能育成、カタクラ工場跡地への適正な機能誘導・既存商店街、蕪崎駅前との連携強化など）
 - ・ 蕪崎駅における市民が使いやすい広場整備
 - ・ 市内及び周辺観光の出発地としての観光情報など、多様な情報発信機能の充実
- “まちの顔”としての魅力的な景観形成
- ・ 蕪崎駅と駅前広場、周辺の建築物を含めた美しい景観の形成
 - ・ 蕪崎駅を中心として、連続する既存商店街の街並みの再生、新たな商業集積地や公共公益集積地へ至る沿道の街並み景観の形成

公共公益施設地の人の集まる環境づくり

市内からの利用者に対応する公共公益施設の機能充実

- ・ 本町周辺の公共公益施設集積地の利便性の向上
 - ・ 市役所をはじめ、図書館等利用者の利便性の向上
- 地域の需要に応じた公共公益サービス機能の充実
- ・ 誰もが身近に利用できる地域の交流拠点としての中央公園の機能拡充
 - ・ 地域の生活拠点としての小学校の機能充実（蕪崎北東小学校の増築）

(2) 地区特性を活かした個性的な土地利用の形成

市の中心としてまとまりのある質の高い市街地の形成(用途地域内)

質の高い中心市街地の形成

- ・ 快適な都市居住地の形成（土地の有効利用の促進、新たな住宅地開発の誘導など）
- ・ 既存住宅地の機能更新（修復的市街地環境整備、建替え等の促進）
- ・ 実態や時代に即する土地利用への計画的誘導

良好な住宅地の育成（藤井地区、七里岩台地上、中島等）

- ・ 既存住宅地の居住環境の向上
- ・ 宅地化の適正な誘導による、道路や下水道環境の整った安全で良好な住宅地の育成

適正な土地利用の誘導（用途地域外）

周辺環境と調和した土地利用の誘導

- ・ 既存集落の環境改善、農業地環境の維持・発展（岩下、上ノ山、藤井地区）
- ・ 宅地化の適正な誘導による、住宅地の形成（一ツ谷、祖母石、台地上）
- ・ 新府城跡南部埋蔵文化財包蔵地の適正な土地利用の誘導

立地特性を活かした新産業地の形成（七里岩台地上、葦崎 I.C 周辺）

- ・ 既存工場地の周辺環境に配慮した操業環境の維持・発展
- ・ 葦崎 I.C 周辺における観光農業の展開など、新たな土地利用の誘導

(3) 安全・快適な暮らしを支える施設や環境整備

道路の機能に応じた安全性・快適性の向上

交通処理能力の向上と安全性の向上

- ・ 企業や集客施設への交通処理の適正な誘導
- ・ 国道 20 号線の交通混雑解消に向けた交差点改良整備の促進
- ・ 葦崎東中学校付近の交通混雑解消のための交差点改良整備の促進
- ・ 国道 141 号線の歩行者や自転車の安全性の向上
- ・ 青坂ループの改良と併せた台地上の幹線道路の整備

地域内の連携機能の強化

- ・ 低地部と七里岩台地上を結ぶ連絡道路の機能強化
- ・ 中心市街地の土地利用動向に基づく都市計画道路の見直し検討
- ・ 国道 141 号線を挟んだ地域横断の安全性確保
- ・ 既存商店街、葦崎駅前から下町相埒線へのアクセス機能確保の検討
- ・ JR 中央線東西地域を繋ぐ道路の改良整備などによる連携強化

地区の実情に応じたきめ細かな道路整備の推進（市道の改良、舗装など）

- ・ 国道 141 号線沿いの水路の上蓋の整備

安心して暮らせる環境整備

住宅地の安全性の向上

- ・生活道路への通過交通の流入抑制による住宅地の安全性の向上
- ・塩川の堤防改修などによる、河川沿い住宅地の安全性の向上

子どもの安全性の向上

- ・小学校や中学校周辺や通学路における、歩行者や自転車の安全性の確保
- ・小学校や中学校周辺における防犯対策の強化

(4) 地域の資源の保全・活用

資源の適正な保全と魅力化

自然資源の適正な保全

- ・市街地の貴重な後背緑地である七里岩等の斜面緑地の保全
- ・釜無川や塩川の環境整備

観光資源周辺の魅力化

- ・勝手神社など歴史ある資源や市民のシンボル意識の高い平和観音周辺の環境整備
- ・民俗資料館周辺の環境整備とアクセスの向上
- ・新府城跡と一帯となった歴史・観光ゾーンの形成

観光資源のネットワーク化

韮崎駅周辺から台地上の新府に至る資源を結ぶ観光ルートの形成

- ・韮崎駅周辺と新府城跡を結ぶ観光ルートの整備
- ・案内板の設置等、観光情報発信機能の充実

河川沿いのネットワーク形成

- ・釜無川河川緑地を活かした、歩行者や自転車の移動空間の整備
- ・河川沿いの緑地や歩行者のネットワーク化

葦崎・藤井地域 まちづくり構想図

2 . 穂坂地域のまちづくり

1) 地域の位置

本地域は、塩川左岸、市の東部の都市計画区域外に位置し、北は北杜市、東から南にかけて甲斐市に接する地域です。

中央自動車道の韮崎 I.C があり、穂坂台地と山林を含む地域です。

穂坂町全域を含む地域となります。



2) 地域の基礎データ

面積は市域の約 12% ですが、市人口の約 8%、約 3 千人が居住し、人口密度は 1.1 人 / ha となっています。

人口は増加しており、人口増加率は、竜岡町、藤井町、大草町に次いで 11 地区中 4 番目に高くなっています。

高齢者比率は 27.1% で、市平均の 20.0% に対して高く、地区別では円野町に次いで 11 地区中 2 番目に高くなっています。

表 地域の基礎データ (H17)

地域面積	2,540ha(18%)
人口	2,761 人(8%)
人口密度	1.1 人/ha
世帯数	839 世帯(7%)
世帯当り人員	3.3 人/世帯

() 内は、全市に対する割合 (%) 資料：国勢調査

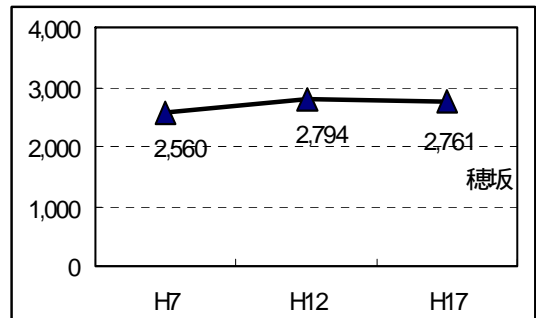


図 人口推移

表 各地区の人口・世帯数の推移

単位：人/世帯/%

	平成 7 年		平成 12 年		平成 17 年		増加率(平成 7 ~ 17 年)	
	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口 (%)	世帯 (数)
穂坂	2,560	700	2,794	813	2,761	839	7.9	139

資料：国勢調査

3) 地域別まちづくりへの住民意向

(市民まちづくりアンケートを通じての地域住民の意向)

住みやすさについて

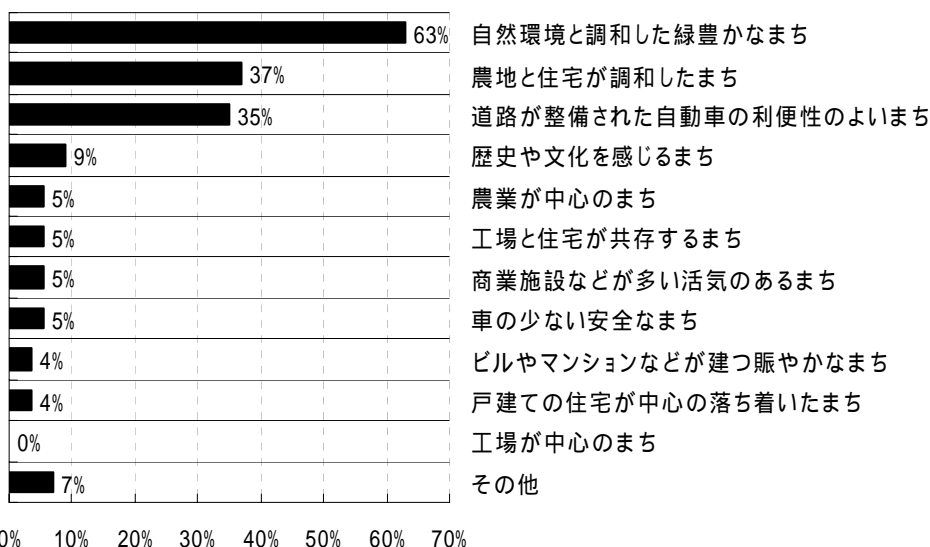
約 6 割の人が「ぜひ住み続けたい」と考えており、「できれば住み続けたい」と考えている人を合せると約 8 割の人が住み続けたいと考えています。

住み続けたい理由の第 1 位は、「山や川や緑などの自然が多いから」(約 5 割の人が選択)で、第 2 位は、「日当たりなど家のまわりの環境が良いから」(約 3 割の人が選択)となっており、他地域と比べ、日当たりや静かな環境など生活環境に関する事項が上位となっている一方、「買物に便利」や「自動車で出かけるのに便利」といった事項は下位となっています。

転居を考えている理由は、「通勤・通学に不便」、「市内で買いたいものがそろわない」(約 3 割の人が選択)がいずれも多くなっています。

地域の将来像について

「自然環境と調和した緑豊かなまち」(約 6 割の人が選択)に次いで、「農地と住宅が調和したまち」(約 4 割の人が選択)への意向が強く、他地域と比べ、「道路が整備された自動車の利便性の良いまち」への意向も強くなっています。



4) 地域の特性と主要課題

本地域は、塩川左岸、市の東部の都市計画区域外に位置し、道路沿道に古くからの集落が形成されている地域です。

地域東側半分は山林です。



地域西側の穂坂台地上は葡萄を中心とした果樹地帯と水田農地が広がっています。

穂坂台地上は、日照時間が長く、優れた農業生産環境を有している一方、後継者不足などにより農業の存続が危惧されています。



穂坂小学校周辺には、主要な公共公益施設が立地し、まとまった集落が形成されていますが、少子高齢化が進行していることから、新たな人口誘致策として、店舗などの生活利便施設や福祉施設、生活道路の充実が求められています。

近年、生活排水の不適切な処理による農業用水や河川の水質の悪化が懸念されています。

地域内の幹線道路は、生活道路としても利用されており、地域住民の安全性の確保が求められています。

地域西側の中央自動車道葦崎 I.C 周辺では、都市的土地利用が進んでおり、無秩序な都市化の進行も懸念されます。

豊かな自然に囲まれ、農業生産基盤と生活基盤の調和が取れた地域の発展を目指すこと

葦崎 I.C 周辺のポテンシャル、穂坂丘陵地のポテンシャルを活かし、既存産業の維持・発展をはじめ、新たな産業や住宅の適正な誘致により、活力ある地域づくりを行うこと

農業を中心としつつ、歴史・文化的資源の掘り起こしにより、新たな魅力を創出すること

これらが、地域のまちづくりの主要課題となっています。

5) 地域の将来像

葦崎 I.C があり、また日照時間が長いなどの恵まれた環境を活かし、

**恵まれた自然の中で、農業を中心に
都市的魅力と観光・保養環境が調和する地域**

の形成を目指します

6) 地域のまちづくり方針

(1) 交通の利便性や穂坂丘陵地の恵まれた環境を活かした土地利用の形成

葦崎 I.C 周辺の計画的土地利用の誘導

高速道路を活用した新産業の育成

- ・ 高速道路利用者への多様なサービス、流通業務、高付加価値型農業（観光農業産業）などの計画的な土地利用の誘導
- ・ 葦崎 I.C へのアクセス道路である主要地方道葦崎昇仙峡線沿道は、ホテルや遊戯施設、風俗施設などの立地規制を検討し、地場産業と連携した飲食店や観光産業など、地域のまちづくりに資する適正な土地利用を誘導

葦崎市の発展、産業を支える工業地の維持・発展

- ・ 既存工場の操業環境の維持
- ・ 新たな工業誘致による工業拠点の形成

住みやすさを活かし、多様な居住形態の住宅地の計画的誘導による地域の活性化

穂坂丘陵地の環境を活かした優良農地の維持・発展

営農環境の整備

- ・ 遊休農地の有効活用
- ・ 鳥獣被害に対する適正な対策の実施

農業振興

- ・ 葦崎 I.C 周辺やフルーツライン沿いなどにおける、観光農業の振興
- ・ 観光農業や農産物の PR など情報発信機能の充実

(2) 住み続けられる都市基盤の整備

住みたいと感じる住環境の形成

集落地の生活環境の向上

- ・ 集落地の良好な居住環境の保全

- ・塀や建物など、特徴ある景観を活かした集落環境の機能更新
- 集落地の安全性の向上
- ・小学校や公民館周辺、通学路における、歩行者や自転車の安全性の向上
 - ・地域の子どもが集まる小学校や公民館周辺における防犯対策の強化
 - ・中小河川の整備による水害に対する安全性の向上
- 生活を支える機能の充実
- ・穂坂小学校、公民館等の環境維持と併せた地域活動・コミュニティ機能の強化（人が集う場の形成）
 - ・身近な生活利便施設の立地誘導（飲食・販売店舗等）
 - ・既存施設の有効利用による、地域福祉機能の確保

機能に応じた交通環境整備

幹線道路の整備促進

- ・穂坂橋の架け替えと併せた既存県道の線形改良等、中心市街地へのアクセス機能の向上
- 地区の実情に応じたきめ細かな道路整備の推進（市道の改良、舗装など）
- ・集落地区での生活利便や観光流動を支える道路の整備
 - ・主要な生活道路の歩行者や自転車の安全性の向上

自然環境の保全

- ・地域西部の山林の適正な維持・管理（不法投棄の防止など）
- ・河川沿いの斜面緑地の保全
- ・下水排水の適正な処理の推進による中小河川などの環境改善

(3) 穂坂地域の自然、歴史・文化、レクリエーション機能などが融合した観光振興

広域的な観光資源としての育成

地域資源を活かした観光振興

- ・ぶどうの里など農作物を活かした観光振興
- ・遺跡などの歴史・文化資源の掘り起こしによる新たな魅力の創出
- ・地域内の歴史・文化資源を活かした学習機会の創出などによる観光振興
- ・銀河鉄道展望公園や深田記念公園などでの住民等の参加による公園環境の維持・管理及び周辺も含めた環境整備
- ・観光客の誘致と併せた、観光マナーの啓発

観光・保養レクリエーションゾーンの形成

- ・ 地域西部の山林地の観光、保養ゾーンとしての環境整備
- ・ スポーツランドやまなしやゴルフ場の広域的なレクリエーション拠点としての育成
- ・ 市有地の周辺環境との調和に配慮した有効活用の検討

地域の資源を繋ぐ観光ネットワークの形成

葦崎 I.C 周辺から茅ヶ岳に至る主要観光ルートの形成

- ・ 観光ルートの景観整備
- ・ 案内板の設置等、観光情報発信機能の充実

地域の資源を巡る観光ルートの形成

- ・ ぶどうの里をはじめ、歴史・文化、公園、レクリエーション拠点などを巡る観光ルートの形成
- ・ 葦崎 I.C を起点に、観光客を取り込む観光巡りの仕組みの導入検討

穂坂地域 まちづくり構想図

3 . 中田・穴山地域のまちづくり

1) 地域の位置

本地域は、釜無川、塩川に挟まれた市の中北部の都市計画区域外に位置し、北から東にかけて北杜市に接する地域です。

七里岩台地上と釜無川・塩川沿いの低地部を含む地域です。

中田町と穴山町の全域を含む地域となります。



2) 地域の基礎データ

面積は市域の約7%であり、市人口の約10%、約4千人が居住し、人口密度は3.6人/haとなっています。

人口は、中田、穴山町共に増加していますが、穴山町の増加率は中田町の2倍となっています。

高齢者比率は23.3%で、市平均の20.0%に対して高くなっており、地区別では穴山町が約22.2%であるのに対し、中田町では約24.4%と円野町、穂坂町に次いで11地区中3番目に高い状況です。

表 地域の基礎データ (H17)

地域面積	961ha(7%)
人口	3,499人(10%)
人口密度	3.6人/ha
世帯数	1,172世帯(10%)
世帯当り人員	3.0人/世帯

()内は、全市に対する割合(%) 資料：国勢調査

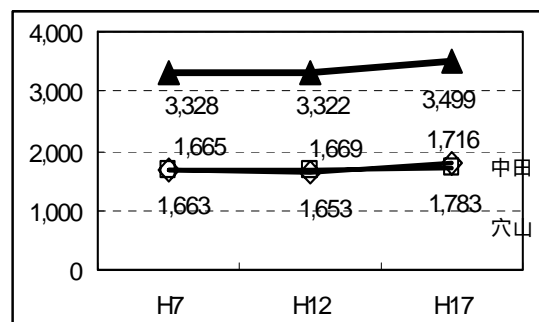


図 人口推移

表 各地区の人口・世帯数の推移

単位：人/世帯/%

	平成7年		平成12年		平成17年		増加率(平成7~17年)	
	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口(%)	世帯(数)
中田	1,665	500	1,669	554	1,716	566	3.1	66
穴山	1,663	516	1,653	548	1,783	606	7.2	90
合計	3,328	1,016	3,322	1,102	3,499	1,172	5.1	156

資料：国勢調査

3) 地域別まちづくりへの住民意向

(市民まちづくりアンケートを通じての地域住民の意向)

住みやすさについて

約4割の人が「ぜひ住み続けたい」と考えており、「できれば住み続けたい」と考えている人を合せると約8割の人が住み続けたいと考えています。

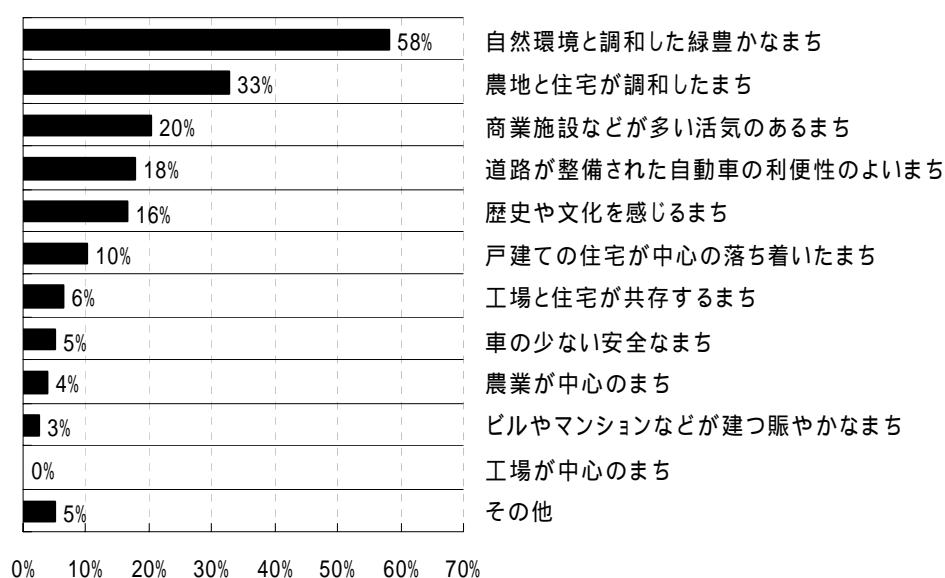
住み続けたい理由の第1位は、「山や川や緑などの自然が多いから」(約5割の人が選択)で、第2位は、「家の周りでごみごみしていなくてゆとりを感じることができるから」(約3割の人が選択)となっており、他地域と比べ、生活環境に関する事項が上位になっている一方、「買物に便利」や「自動車で出かけるのに便利」といった事項は、回答数が0となっています。

転居を考えている理由は、「通勤・通学に不便だから」(約半数の人が選択)が圧倒的に多くなっています。

地域の将来像について

「自然環境と調和した緑豊かなまち」(約6割の人が選択)に次いで、「農地と住宅が調和したまち」(約3割の人が選択)への意向が強くなっています。

中田町では、「歴史や文化を感じるまち」(約2割の人が選択)への意向も強くなっています。



4) 地域の特性と主要課題

本地域は、釜無川、塩川に挟まれた市の中北部の都市計画区域外に位置し、旧街道沿いに、古くからの集落が形成されている地域です。塩川沿いは、圃場整備田を含めた水田中心の農地が広がり、七里岩台地上は、地形上、農業用水が少ないため畑が多く、現在は桃の生産が非常に盛んです。

七里岩台地上には、新府城跡や能見城跡といった歴史資源をはじめ、新府桃源郷など観光資源を有しています。

穴山駅周辺には、公共公益施設が集積していますが、店舗などの生活利便施設はなく、快適な暮らしの環境は整っていません。

交通は、南北に比べ、台地上と低地部を結ぶ東西のネットワークが弱くなっています。

台地上の県道をはじめ、塩川沿いの国道141号線や釜無川沿いの国道20号線といった広域の幹線道路は、生活道路としても利用されており、生活者の安全性の確保が求められています。

圃場整備の実施されている農地は、優れた生産環境を有していますが、少子高齢化による後継者不足により、新たな農業振興策が必要となっています。

地域内には、まとまった樹林地をはじめ、釜無川、塩川といった貴重な河川環境を有しており、資源の有効活用はもとより、防災対策が求められています。

中田町小田川の塩川と国道141号線に挟まれた集落地内には、北杜市との市境が引かれた箇所があり、生活圏の相違などが及ぼす問題が懸念されています。



穴山駅と新府駅周辺及び国道141号線沿いのまとまった集落の暮らしの環境を整備するとともに、新たな住宅地等の形成を誘導し、安心して暮らし続けることのできる地域をつくること

水田、果樹を中心とした農業と歴史・文化的観光の融合により、新たな魅力を創出すること

七里岩や地域内のまとまった樹林地、釜無川、塩川を守るとともに有効に活かし、自然環境と調和した安全な地域を形成すること

これらが、地域のまちづくりの主要課題となっています。

5) 地域の将来像

既存の資源に新たな魅力を持たせ、

**自然を背景に、農業と歴史が連携した観光、
人々の暮らしや営みが融合する地域**

の形成を目指します

6) 地域のまちづくり方針

(1) 駅周辺地区のまとまりのある土地利用の形成

穴山地域の中心となる穴山駅周辺地区の活性化

本市北部地域の中核として、まとまりのある住宅地の形成

- ・ 緑の多いまとまりある住宅地の住環境の維持・更新
 - ・ 趣を残した集落地の住環境や景観整備
 - ・ 新たな住宅の立地誘導
- 生活を支える機能の充実
- ・ 身近な生活利便施設の立地誘導（飲食・販売店舗等）
 - ・ 公民館等における地域活動・コミュニティ機能の強化
 - ・ 穴山駅、及び駅周辺の交通環境や景観整備と駅利用者への情報発信機能の充実（案内板など）
 - ・ 既存福祉施設の利便性の向上、新規福祉施設の整備による地域福祉拠点機能の強化

新府駅周辺地区の環境整備

駅利用者の利便性の向上

- ・ 利用者の安全・快適な空間形成（防犯灯設置、駅前の広場空間の創出、駐輪場所の確保など）
- ・ JRの廃軌道の有効活用の検討
- ・ 利用者への情報発信機能の充実

駅周辺住宅地の住環境整備

- ・ 農地と調和する住環境整備
- ・ 新たな住宅の立地誘導

(2) 周辺環境と調和した適性な土地利用の形成

国道沿いの土地利用の形成

国道 141 号線沿いの土地利用の形成（中田地区）

- ・沿道商業・業務施設の適正な立地誘導
- ・旧街道沿いのまとまりある既存集落地内の住環境の改善
- ・公民館等における地域活動・コミュニティ機能の強化
- ・健康センターを活かした健康・交流拠点機能の強化
- ・国道 141 号線沿道低未利用地のまちづくりに資する土地利用の誘導

国道 20 号線沿いの土地利用の形成

- ・沿道商業・業務施設の適正な立地誘導
- ・沿道住宅地の適正な立地誘導

水田・果樹を中心とした農業地の維持・発展

- ・営農環境の整備、保全（圃場整備済み農地の振興策の検討による、生産地、観光資源としての維持・発展【市民農園、加工品のブランド化等】）
- ・遊休農地の有効活用の検討
- ・道の駅や新府共選場の有効活用による、地場産業の情報発信機能の強化
- ・鳥獣被害に対する適正な対策の実施

(3) 暮らしを支える環境整備

機能に応じた交通環境整備

幹線道路の整備と併せた住民の安全性の向上

- ・穴山バイパスの整備促進による広域ネットワークの確立
- ・穴山バイパス整備後の現道（穴山駅前県道）の生活道路としての適切な維持・管理
- ・国道 141 号線の歩行者や自転車の安全性の向上

地域内の連携機能の強化

- ・穴山駅周辺から新府駅周辺を結ぶとともに、台地下までの連携を考慮した地区内幹線道路の整備検討
- ・低地部と七里岩台地上を結ぶ連絡機能の強化
- ・国道 141 号線の横断機能の向上

地区の実情に応じたきめ細かな道路整備の推進（市道の改良、舗装など）

安心して暮らし続ける事のできる住宅地の形成

住宅地の安全性の向上

- ・生活道路への通過交通の流入抑制による住宅地の安全性の向上
- ・塩川の堤防改修などによる、河川沿い住宅地の安全性の向上

- ・台地上の表流水の排水改善
高齢者や子どもの安全性の向上
- ・公民館等の公共施設周辺や通学路における、歩行者や自転車の安全性の向上
- ・地域の子どもが集まる公民館等の公共施設周辺における防犯対策の強化
若い人や子どもなど、地域の人が利用できる身近な公園の整備

(4) 農地と歴史・文化資源の融合した観光地の形成

資源の適正な保全と魅力化

自然資源の適正な保全

- ・七里岩等の斜面緑地や地域内のまとまった樹林地の保全
- ・釜無川や塩川の河川環境整備

新府城跡一帯の歴史・観光ゾーンの形成

- ・新府城跡の「史跡新府城跡保全整備計画」に基づく整備と併せた周辺地域の環境整備（緑の保全、交通環境整備、景観整備、適正な土地利用誘導等）

地域の資源を活かした観光機能の強化

- ・能見城跡など歴史ある資源の観光機能の強化（アクセス性の向上、入口部の整備等）
- ・健康センターや道の駅、新府共選場の観光拠点化
- ・穴山さくら公園を核とするさくらの観光地としての育成

地域の歴史・文化資源を巡る周遊観光の育成

地域の資源を巡る観光ルートの形成

- ・新府城跡、新府桃源郷、能見城跡、ホテルの里、健康ふれあいセンター、道の駅など、地域内の資源を巡る歩行者道路の整備
- ・穴山駅、新府駅における案内板の設置をはじめ、観光ルート上での観光情報発信機能の充実
- ・観光巡りのできる新たな交通システムの導入検討と併せた道路ネットワークの形成検討

河川沿いのネットワーク形成

- ・塩川沿いの歩行者や自転車の移動空間の整備
- ・釜無川沿いの歩行者や自転車の移動空間の維持・創出

中田・穴山地域 まちづくり構想図

4 . 円野・清哲地域のまちづくり

1) 地域の位置

本地域は、釜無川の右岸、市の北西部の都市計画区域外に位置し、北は北杜市、西から南にかけて南アルプス市と接する地域です。

地域の西側のほとんどが山林となっており、地形的な制約のある地域です。

円野町と清哲町の全域を含む地域となります。



2) 地域の基礎データ

面積は市域の約 43% を占めていますが、地形的な制約から居住人口は、市人口の約 7%、約 3 千人であり、人口密度は 0.4 人 / ha となっています。

人口は減少しており、特に円野町の人口増加率はマイナス 6.0% と、11 地区中 1 番低くなっています。

高齢者比率は 25.0% で、市平均の 20.0% に対して高く、特に人口減少が著しい円野町では約 27.6% と、11 地区中一番高い状況です。

表 地域の基礎データ (H17)

地域面積	6,125ha(43%)
人口	2,500 人(7%)
人口密度	0.4 人/ha
世帯数	835 世帯(7%)
世帯当り人員	3.0 人/世帯

() 内は、全市に対する割合 (%) 資料：国勢調査

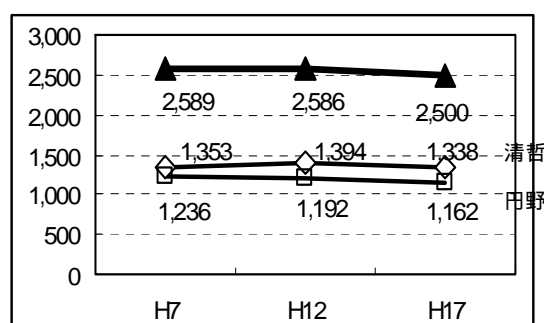


図 人口推移

表 各地区の人口・世帯数の推移

単位：人/世帯/%

	平成 7 年		平成 12 年		平成 17 年		増加率(平成 7 ~ 17 年)	
	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口 (%)	世帯 (数)
円野	1,236	393	1,192	407	1,162	411	6.0	18
清哲	1,353	402	1,394	424	1,338	424	1.1	22
合計	2,589	795	2,586	831	2,500	835	3.4	40

資料：国勢調査

3) 地域別まちづくりへの住民意向

(市民まちづくりアンケートを通じての地域住民の意向)

住みやすさについて

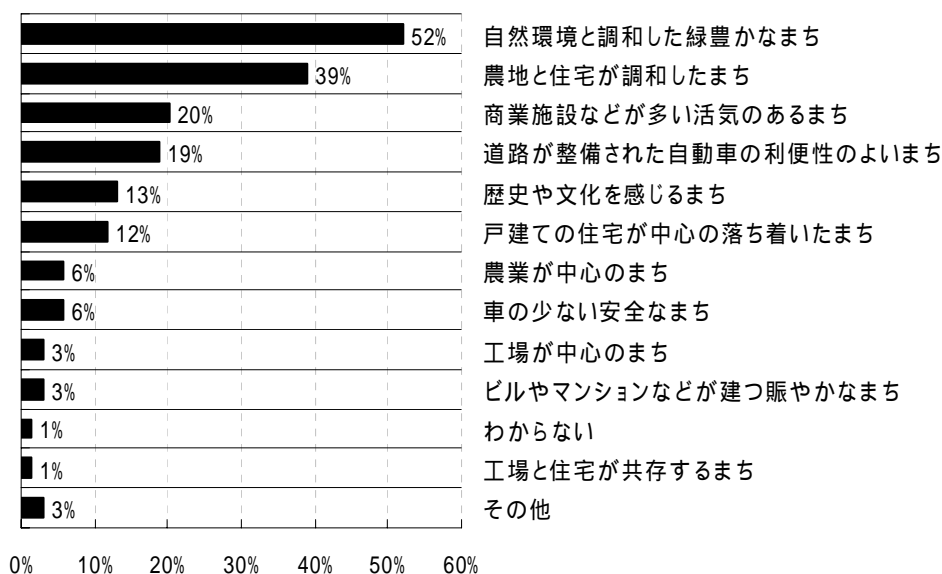
約4割の人が「ぜひ住みたい」と考えており、「できれば住みたい」と考えている人を合せると約8割の人が住みたいと考えています。

住みたい理由の第1位は、「山や川や緑などの自然が多いから」(約6割の人が選択)で、第2位は、「家の周りでごみごみしてなくてゆとりを感じることができるから」(約3割の人が選択)となっており、他地域と比べ、ゆとりある環境や静かな環境、日当たりなど生活環境に関する事項が上位になっている一方、「買物に便利」や「自動車で出かけるのに便利」といった事項は下位になっています。

転居を考えている理由は、「通勤・通学に不便だから」(約半数の人が選択)に次いで、「まちに魅力がない」、「市内で買いたいものが揃わないから」(約3割の人が選択)が多くなっています。

地域の将来像について

「自然環境と調和した緑豊かなまち」(約5割の人が選択)に次いで、「農地と住宅が調和したまち」(約4割の人が選択)への意向が強くなっています。



4) 地域の特性と主要課題

本地域は、釜無川の右岸、市の北西部の都市計画区域外に位置し、地域の西側のほとんどが南アルプス国立公園、県立南アルプス巨摩自然公園を含む山林となっており、地形的な制約から、川と並行に走る県道や生活道路沿いに細長く農地や集落が形成されている地域です。



釜無川に並行する主要地方道葦崎南アルプス中央線と農免道路を軸とした道路網が形成されていますが、歩行者の安全対策が求められています。

水田を中心とするまとまった農地が分布し、武川米等が生産されている農業が盛んな地域です。北側は圃場整備が実施され、加えて農業関連施設が整備されています。

鳳凰三山や荒倉山等の、自然を活かした広域的な観光資源や身近な交流資源を有する地域です。

居住及び農業、双方の環境の向上を図り、安定した生活の場を維持していくこと
良好な自然環境を保全・活用し、人間の良好な生活の基礎条件と動物との共存条件を担保するとともに、資源を活かした広域交流を促進すること

これらが、地域のまちづくりの主要課題となっています。

5) 地域の将来像

既存の資源を活用して、

**安心して住み続けることのできる快適で美しい環境が整い、
自然を活かした交流が活発に行われる地域**

の形成を目指します

6) 地域のまちづくり方針

(1) 安全・安心・快適に暮らすことのできる生活環境の実現

交通環境の整備

歩行者の安全性の向上

- ・安全施設等の整備（県道・農免道の歩道の整備、溝蓋の整備、県道への信号機の設置、黄色点滅信号の改善、街路灯の設置等）
- ・適切な交通規制の実施（通過交通の制限、速度規制、追い越し禁止等）

主要な生活道路等の整備

- ・緊急車両が通行できる幅員への拡幅、交差点改良等

広域ネットワークの検討

- ・生活交通と通過交通機能の分担に向けた国道20号線バイパスの整備検討

安全な生活環境の整備

- ・中小河川の整備による水害に対する安全性の向上（唐沢川等）
- ・鳥獣被害の適正な対策の実施による、安全性の確保

快適な生活環境の整備

生活を支える機能の育成・強化

- ・公民館（円野、清哲）の環境維持、葦崎北西小学校の運動場・体育館・教室の開放による身近な交流拠点機能の強化
- ・公園の利用しやすい環境整備、住民・企業参加での公園環境の維持管理による、身近なレクリエーション拠点機能の強化（午頭島公園等）
- ・商店等、身近な生活利便施設の立地誘導

適切な住宅の維持と民間住宅の誘導等

- ・市営住宅等の適切な維持管理
- ・農業振興や美しい環境づくりと連携した民間住宅の誘導等の検討

汚水・雨水の適切な処理

- ・ 汚水処理施設の整備
- ・ 雨水排水路の整備

美しい景観の整備

- ・ 集落や農地の景観整備（花一杯運動の展開、山裾への桜の植樹・維持管理、かかしカーニバル等の展開、田園景観の維持・保全等）
- ・ 河川を活かした景観の整備

(2) 営農環境の維持・増進

農業基盤の保全・整備

- ・ 適正な土地利用計画による優良農地の保全
- ・ 農業用水路・農道の適正な維持・管理

農業経営の安定化

- ・ 南部物流センター、カントリーエレベーター等の農業施設の有効活用と農産物の産地化の推進
- ・ 鳥獣被害に対する適正な対策の実施

(3) 豊かな自然の保全・活用

自然資源を活かした交流の促進

鳳凰三山等を活かした広域交流の促進

- ・ 鳳凰三山等の良好な環境の維持保全
- ・ 交流拠点を結ぶ林道の整備や案内板の設置等による自然を巡る交流軸の整備

荒倉山を活かした身近な自然交流の促進

- ・ 荒倉山及び周辺の良好な環境の維持とツツジの植樹等による魅力の増進
- ・ かかしの里を巡る交流ルートの強化、午頭島公園のアクセス基地としての機能強化等による利用しやすい環境整備

山や川等の恵まれた自然の保全活用

- ・ 良好な定住環境の基本となる豊かな自然の保全
- ・ 鳥獣と人間が共生するための適切な自然の維持・管理
- ・ 釜無川の河川敷内の樹木の伐採やごみの清掃等による環境保全と午頭島公園等を中心とした親水軸の整備

円野・清哲地域 まちづくり構想図

5 . 神山・旭・大草・竜岡地域のまちづくり

1) 地域の位置

本地域は、釜無川右岸、市の南西部に位置し、南は南アルプス市、東は甲斐市と接する地域です。

地域の東側の都市計画区域に指定されたエリアと、西側半分の山林を含む地域です。

神山町、旭町、大草町、及び竜岡町の全域を含む地域となります。



神山・旭・大草・竜岡地域

2) 地域の基礎データ

面積は市域の約 25% を占め、市人口の約 36% に相当する約 1 万 2 千人が居住していますが、人口密度は 3.4 人 / ha となっています。

人口は増加しており、特に、竜岡町、大草町での増加が顕著になっています。人口増加率は、竜岡町が 11 地区中 1 番高く、大草町は、竜岡町、藤井町に次いで 11 地区中 3 番目に高くなっています。

高齢者比率は 16.5% で、市平均の 20.0% に対して低い状況ですが、地区別では神山町が約 23.1%、旭町が約 19.2% と高い一方、人口増加が著しい大草町や竜岡町では低くなっています。竜岡町では、約 12.5% と 11 地区中一番低く、次いで大草町が約 15.9% となっています。

表 地域の基礎データ (H17)

地域面積	3,577ha(25%)
人口	12,142 人(36%)
人口密度	3.4 人/ha
世帯数	3,878 世帯(34%)
世帯当り人員	3.1 人/世帯

() 内は、全市に対する割合 (%) 資料：国勢調査

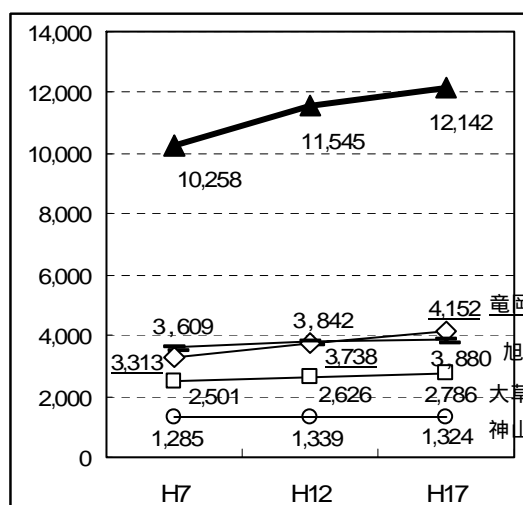


図 人口推移

表 各地区の人口・世帯数の推移

単位：人/世帯/％

	平成 7 年		平成 12 年		平成 17 年		増加率(平成 7～17 年)	
	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口(%)	世帯(数)
神山	1,285	379	1,339	451	1,324	451	3.0	72
旭	3,609	844	3,842	983	3,880	1,067	7.5	223
大草	2,501	743	2,626	801	2,786	911	11.4	168
竜岡	3,313	1,027	3,738	1,274	4,152	1,449	25.3	422
合計	10,258	2,993	11,545	3,509	12,142	3,878	18.4	885

資料：国勢調査

3) 地域別まちづくりへの住民意向

(市民まちづくりアンケートを通じての地域住民の意向)

住みやすさについて

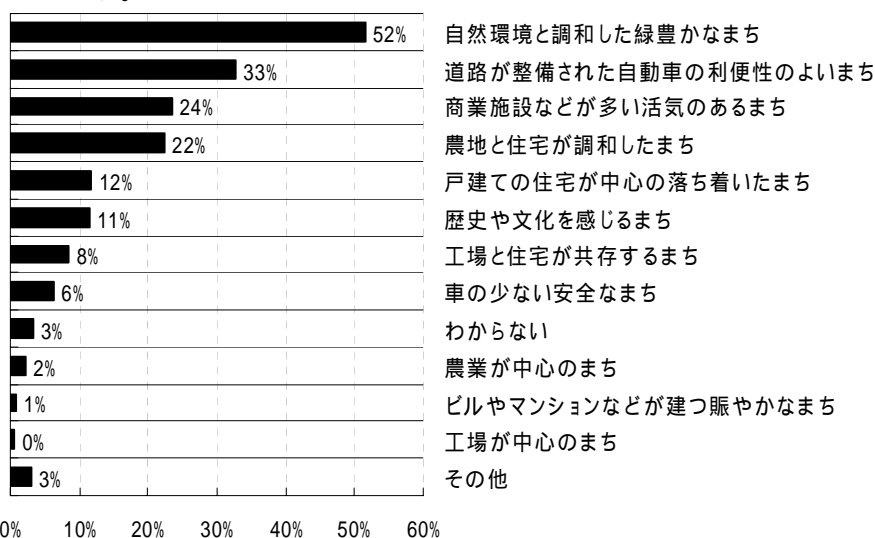
約 4 割の人が「ぜひ住み続けたい」と考えており、「できれば住み続けたい」と考えている人を合すると約 8 割の人が住み続けたいと考えています。

住み続けたい理由の第 1 位は、「山や川や緑などの自然が多いから」(約 4 割の人が選択)で、第 2 位は、「日当たりなど、家のまわりの環境が良いから」(約 3 割の人が選択)となっており、他地域と比べ、日当たりや静かな環境など生活環境に関する事項が上位になっている一方、「買物に便利」や「自動車で出かけるのに便利」といった事項は下位になっています。

転居を考えている理由は、「まちに魅力がない」(約半数の人が選択)に次いで、「市内で買いたいものが揃わないから」(約 4 割の人が選択)が多くなっています。

地域の将来像について

「自然環境と調和した緑豊かなまち」(約 5 割の人が選択)に次いで、「道路が整備された自動車の利便性の良いまち」(約 4 割の人が選択)への意向が強くなっています。神山町では、「歴史や文化を感じるまち」(約 4 割の人が選択)への意向がより強くなっています。

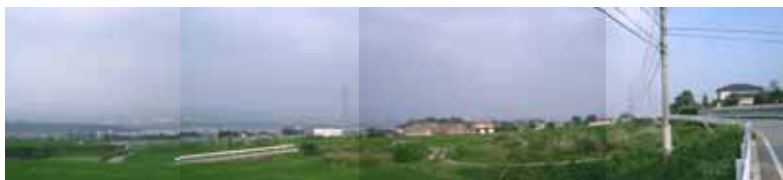


4) 地域の特性と主要課題

本地域は、釜無川右岸、市の南西部に位置し、地域西側半分は南アルプス国立公園、県立公園を含む山林、東側の都市計画区域内に農地や集落が形成されている地域です。

近年、地形的に広がりのある竜岡町や大草町を中心に、主要な道路沿いや集落周辺において住宅地などの開発が進んで

います。そのため人口は増加していますが、無秩序な開発による環境の悪化も懸念されています。



地域南部の御勅使川沿いには、御勅使工業団地が形成されており、隣接する住宅地との環境の調和が求められています。

武田八幡宮、白山城跡、願成寺、将棋頭などの歴史資源や、約15万坪のレンゲツツジの大群落を有する甘利山などの自然資源を有する地域です。



国道20号線に接続する武田橋、船山橋では渋滞が発生しており、渋滞解消等釜無川左岸地域との連絡性を高めていくことが求められています。また、国道20号線の渋滞解消、交通の円滑化のため、バイパスの整備が検討されています。

都市化の動きを適切に受け止め、豊かな自然・農業環境の保全・活用を図るとともに、これらと調和した都市機能を育成し、バランスある地域を育成していくこと

武田八幡宮などの歴史資源を発見し、磨き・発信し、地域の活性化を図っていくこと

既存集落における居住環境の向上を図り、安全・快適な暮らしの場を形成していくこと

これらが、地域のまちづくりの主要課題となっています。

5) 地域の将来像

都市的なポテンシャルと歴史・自然資源を有効に活用し、

**豊かな自然・歴史・農業環境と新たな都市的環境、
新旧住民の生活と文化が調和して、新たなハーモニーを奏でる地域**

の形成を目指します

6) 地域のまちづくり方針

(1) 農業環境と調和した都市機能の育成

都市的土地利用の適正な規制・誘導

良好な住宅地の育成

- ・計画性のない個別の住宅立地に対する規制の検討
- ・大草・竜岡等における需要に応じた計画的・面的な新たな住宅地の整備と適正な土地利用誘導

環境に影響の少ない工場立地の誘導

- ・既存工業地の操業環境の改善と工業地の計画的な整備
- ・公害発生業種、廃棄物処理業種の工場立地に対する規制強化の検討

都市活動を支え市中心部との連携を強化する幹線道路の整備

- ・釜無川を渡る道路の機能強化（船山橋・武田橋の渋滞対策、国道20号線バイパスと合わせた新たな架橋整備）
- ・国道20号線バイパスの整備検討

農地の適正な保全・活用

農業基盤の保全・整備

- ・適正な土地利用計画による優良農地の保全
- ・農業用水路・農道等の適正な維持・管理

農業経営の安定化

- ・カントリーエレベーター等の農業施設の有効活用と農産物の産地化の推進
- ・鳥獣被害に対する適正な対策の実施

(2) 豊かな歴史・自然環境の保全・活用

歴史・自然資源を活かした交流の促進

歴史資源を活かした交流機能の強化

- ・ 武田八幡宮、白山城跡、わに塚の桜、願成寺、白山温泉、甘利沢公園等を一帯とした武田の里交流拠点の環境整備（道路、駐車場、撮影ポイント、案内板等の整備、美術館整備の誘導と有効活用、武田の里を巡る交流ルートの育成）
- ・ 将棋頭等の歴史資源を活かした交流拠点化と新たな資源の発掘

自然を活かした交流機能の強化

- ・ 甘利山等の自然交流拠点の環境の維持・整備（自然環境の適正管理、レンゲツツジの保護・増殖、遊歩道入口部の駐車場やログハウス周辺の魅力化等）
- ・ 交流拠点を結ぶ林道等の整備や案内板の設置等による自然を巡る交流軸の整備

豊かな自然環境の保全

- ・ 良好な定住環境の基本となる豊かな自然の保全
- ・ 鳥獣と人間が共生するための適切な自然の維持・管理
- ・ 釜無川・御勅使川の環境保全と河川沿いの公園を中心とした親水軸の形成

(3) 安全・安心・快適に暮らすことのできる生活環境の実現

交通環境の整備

主要な生活道路等の整備

- ・ 緊急車両が通行できる幅員への拡幅、交差点改良等

通学路等の安全性の向上

- ・ 安全施設等の整備（歩道の設置・バリアフリー化、信号機の設置、街路灯の設置等）
- ・ 適切な交通規制による通過交通の排除等

安全な生活環境の整備

- ・ 消火栓や丘陵、森林部の消防水利を確保する貯水池等の整備による防火機能の向上
- ・ 古川など中小河川の整備による水害に対する安全性の向上
- ・ 新市街地の形成と併せた水害対策など安全性の確保

快適な生活環境の整備

生活を支える機能の育成・強化

- ・ 老人福祉センター、デイサービスセンターの環境の維持・改善による地域福祉拠点機能の強化

- ・ 公民館（神山、旭、大草、竜岡）の環境維持、甘利小学校・葦崎西中学校の運動場・体育館・教室の開放による身近な交流拠点機能の強化
 - ・ 甘利小学校の需要に応じた増・改築等の検討
 - ・ 公園の利用しやすい環境整備、住民・企業参加での公園環境の維持管理による身近なレクリエーション拠点機能の強化（大規模治水公園等の整備、甘利沢川沿い公園の住民等の参加による維持管理）
 - ・ 商店等、身近な生活利便施設の立地誘導
- 汚水・雨水の適切な処理
- ・ 汚水処理施設の整備（公共下水道等）
 - ・ 雨水排水路の整備

神山・旭・大草・竜岡 まちづくり構想図